令和５年６月２３日

福岡医療専門学校
校長　藤瀬　武　殿

学校関係者評価委員会
委員長　下迫　勇夫

学校関係者評価委員会報告

令和５年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員会　委員　　（五十音順　敬称略）

東　　りか	はり灸・整骨院　Re.庵 代表
北原　孝子	朝日ホーム有限会社 顧問
木下　健一郎	有限会社ひかり（通所介護ライズ）　代表取締役
行徳　倫子	医療法人正明会　諸岡整形外科病院・クリニック 看護部管理者
下迫　勇夫	福岡医療専門学校 非常勤講師
山中　知愛	医療法人 西福岡病院 放射線科 科長
渡辺　淳一	（株）堺整骨院西代表取締役 ４期卒業生

２　学校関係者評価委員会の審議スケジュール
（１）自己点検・自己評価報告書の書面審議（令和４年度）
（２）令和５年６月１７日（土）学校関係者評価委員会開催

３　学校関係者評価委員会報告
別紙のとおり

以　上

別紙

Ⅰ　重点目標

１　教育活動

○　令和４年度の国家試験合格率は、はり師が合格率 100%で全国第一位。きゅう師 98.0%、看護師 98.5%、診療放射線技師 97.7%、理学療法士 97.6%、柔道整復師 84.6%であった。新型コロナウイルス感染症拡大期においても、対面授業を継続することで教育水準を落とさないように努めた結果、全資格が全国平均を大きく上回っている。卒業年次の本校独自の国家試験対策に加え、入学次からの基礎教育への取組みが高い国家試験合格実績に反映している。

○　緊急事態宣言の発令等により医療機関の実習受入制限があり、実習に代わり演習や学内実習を行うことを余儀なくされた時期があった。不足した内容を学内実習や再実習等で補うことにより、習熟度を高めることに努めている。コロナ感染が収束してからは、対面授業を中心とした教育活動を行い、医療機関等における臨床実習もほぼ全面的に再開している。スポーツ大会や部活動等の課外活動も再開している。

○　令和 4 年度卒業生に対する求人倍率は、増加傾向に転じ、新型コロナウイルス感染症拡大前の状況に戻りつつある。パソコンを利用した遠隔面接等、感染拡大期に広まった新たな就職活動方法にも対応できる支援を行っている。

２　実践的な職業教育

○　地域医療機関等と連携した教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保・向上に取組んでいる。文部科学大臣が認定する職業実践専門課程の認定を受け、年２回、教育課程編成委員会を開催し、外部委員から貴重な現場の意見を集約している。

○　職業実践専門課程を指導する教員において、更なる知識向上に努めるため、FD 研修や外部研修会への積極的な参加の継続を推奨している。

○　実践的な職業教育を行うための設備・環境が充実している。コロナ禍において、実技・実習等は制限されていたたが、医療機関等における臨床実習もほぼ全面的に再開している。

○　本校は、知識・技術だけでなく人間性についても重要視している。卒業生の就職先等でも、社会人としてのマナー、身だしなみ等を初年度教育で徹底して指導しているところが多く、このような就職先等が求めるレベルに対応した人材を育成していく必要がある。

３　新学科設置に向けた取組み

○　令和５年４月に歯科衛生科を新設した。地域医療機関の要請を受け、令和５年度に歯科衛生科を設置すべく申請を行い、令和４年 11 月９日付けで指定を受けている。

○　歯科衛生科を設置したことや、歯科衛生士の業務の理解が、高等学校等に周知されていいない。高等学校との連携をさらに深めていくことが課題である。

Ⅱ　各評価項目

1　教育理念・目的・人材育成像

評価・意見	4段階
○　理念・目的・育成人材像は詳細かつ具体的に設定されている。定められた内容に対して教職員が一丸となって取り組んでいる。育成人材像については時代の変化に応じ柔軟に対応している。 ○　歯科衛生科が設置され、新入生を迎えられたことが良かった。学校のホームページも見やすくわかりやすかった。しなしながら、パンフレットの卒業生の欄は例年同じ卒業生が載っているため、別の卒業生を載せることを検討してもいいのではないか。 ○　SDGs の観点から、本校が学生指導をすることで、社会問題を解決していくための具体的な明確な目標を定めてもいいのではないか。	評価平均 3.7

2　学校運営

○　学校運営委員会により方針の決定が円滑になされている。方針については社会の要請に合わせて定められている。学校会議規程等に基づき、各会議が開催されており、迅速に意思決定するための体制が強化されている。 ○　教員間の連絡等は、アプリを活用してシステム化され、業務効率化が推進されている。 ○　学校運営について計画が立てられ、歯科衛生科が設置されている。 ○　人材の獲得競争が過熱する中、適性の乏しい人材を取り込んでも、途中退学者等を増やすようことがないよう、就職した卒業生を紹介し、ラインやメール等で気軽に連絡をもらってはどうか。	4

３　教育活動

○　教育目的・目標に沿った教育課程を編成している。目標に達成しそうにない学生への授業や補習は大変であると思うが、力を入れて実践して欲しい。また、国家資格以外にも資格の取得の機会を提供していることは評価できる。 ○　授業評価を授業者に結果を知らせることにより、指導法の改善につながる。 ○　社会人になると技術習得＝（イコール）数字につながるので、定量評価をしっかり行っていただきたい。卒業して、その業務に携わったときに役に立つ実践力をつける教育ももっとあってもいいのではないかと思う。	3.8

４　学修成果

○　就職率については、全科共 100%を達成している。学生支援課等必要な担当部署が設置され強力に推進されている。 ○　国家試験対策の補講や、模擬試験の実施等が計画的に行われており国家試験合格率につながっている。 ○　国家試験の出題範囲が拡張していることに対して、適切な対策が必要ではないか。	3.8

5　学生支援

○　就職・進路に関する支援や、学生相談、学生の経済面に対する支援はしっかりされている。 ○　複数担任制について、複数担任がいるクラス担任の組合せは経験者と若年者や、男性と女性等の組合せが良いのではないか。 ○　退学率の低減については見直しを行い、しっかり方針を変更され、取り組まれている。 ○　学生の経済的側面に対する支援体制について、経済面に関しては学生から話をするのは難しいと思う為、雰囲気作りが大切である。格差社会の中で学資ローンという対策もあるが、返済が困難な者や、ローンを組めない家庭もある。学校独自の学費分割制度（毎月納金）というサポートも検討してはどうか。 ○　保護者との連携はとても大事なことであるため、しっかりと取り組んで欲しい。 ○　卒業生への支援体制について、学生と関わってみたいと考えている卒業生は多いので、検討して欲しい。	3.5

6　教育環境

○　学習環境がしっかりと整備がされている。良い学習環境が学生の学習意欲向上につながっている。 ○　学外実習は、学内実習等と組み合わせて効果的かつ 効率的な実習になるよう工夫している。令和５年度は海外研修を再開し台湾に行っている。異文化に触れ、海外の医療を肌で感じることで、自国を理解する良い機会となっている。	4

7　学生の募集と受入れ

○　学校案内、学校ホームページ等が充実しており受験者に情報が適切に伝わっている。 ○　オンライン学校説明会や入試説明会を実施している。 ○　学納金は、教育内容にふさわしい適切な水準に定められている。 ○　入学する際に、「本当にこの道を目指したい」と思わせて入学させる工夫もあってもいいのではないか。	3.9

8　財　務

○　適正な監査の実施、情報の公表ができている。	4

9　法令等の遵守

○　法令等の遵守は適切である。 ○　学校関係者評価委員会が開催され、公開されている自己点検・自己評価報告書を基に、活発な議論及び評価がなされている。	4

10　社会貢献・地域貢献

○　コロナ感染症収束後は、ボランティア活動の取組みを強化し、活動を活動になることを期待する。国際交流については実施方法等を含め検討する必要がある。	4

まとめ

各評価項目の評価は平均３．９（４段階評価）であり、高水準が維持されている。コロナ禍において、教職員が一丸となり教育活動を真摯に取り組んでいたことは評価できる。教育目的である「知識・技術・人間性を兼ね備えた人材を育成する」ためには、人間性に関する教育がさらに必要であると、学校関係者評価委員から多くの意見が述べられた。

新入生の退学率の低下させる取組みをされているが、就職先においても、新人職員の離職率を下げることが重要な課題となっている。入社初年次教育に関して苦慮している医療機関も多い。そのような中、学校、卒業生、就職先及び実習先との意見交換をさらに深めていくことの重要性について委員からいくつかの提言がされたので、今後の教育活動に活用していただきたい。